

小 学 校

令和6年度

教育研究員研究報告書

外国語活動・外国語

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	2
V	研究構想図	3
VI	研究の内容	4
VII	検証授業	6
	〈検証授業① 外国語活動 第3学年〉	6
	〈検証授業② 外国語科 第5学年〉	8
	〈検証授業③ 外国語科 第5学年〉	11
VIII	研究の成果と課題	13

## 研究主題

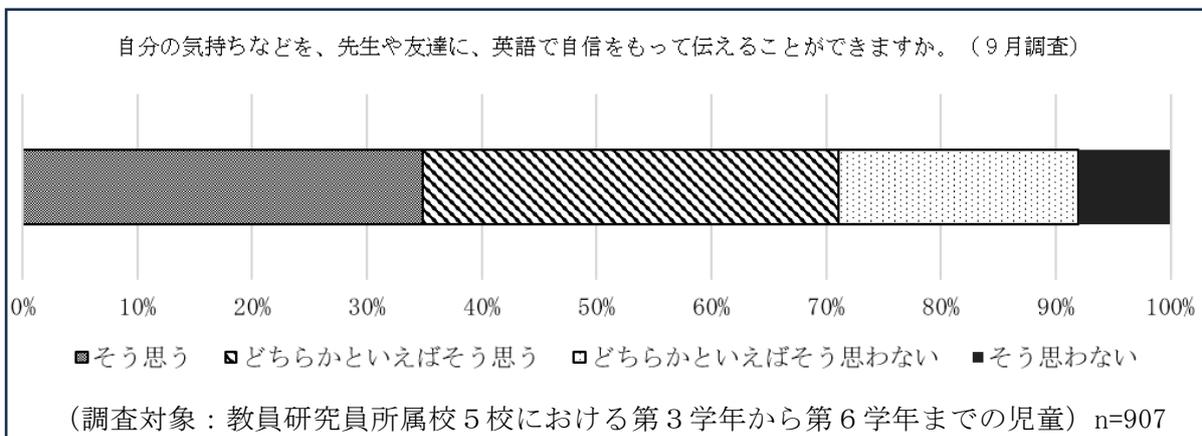
# 全ての子供たちが 自信をもって英語で話せるようになるための指導の工夫 ～「話したい！」という意欲を引き出す言語活動を目指して～

## I 研究主題設定の理由

小学校学習指導要領では、外国語科の目標として、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指すことが示されている。

研究を進めるに当たって、教育研究員の所属校での外国語活動・外国語科の授業における児童の実態について協議を重ねた。各校における課題で共通していた点が、児童の外国語に対する意識や態度に関することであった。例えば、「自信をもって英語でやり取りをすることに難しさを感じている児童がいる」「英語でやり取りを楽しんで取り組めないと感じている児童が多くいる」などである。

しかし、このことは教育研究員の主観である可能性も考えられた。そこで、外国語活動・外国語科の授業に対する児童の意識を客観的に捉え、児童の実態や課題をより具体的に把握するため、教育研究員の所属校の第3学年から第6学年の児童を対象に、外国語活動・外国語の授業を通して「自分の気持ちなどを、先生や友達に、英語で自信をもって伝えることができるか」についてアンケートによる意識調査を実施した。



上記の意識調査の結果から、「自分の気持ちなどを、先生や友達に、英語で自信をもって伝えることができている。」と意識している児童の割合は約7割であるのに対し、自信をもって英語で話すことに課題が見られる児童の割合は、約3割という実態が明らかになった。

そこで本研究では、東京都の目指す教育である『誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って自ら伸び、育つ教育』（「東京都教育ビジョン（第5次）」（東京都教育委員会 令和6年3月））の実現を目指し、児童の実態や意識調査の結果を踏まえて、目指す児童像を「間違いを恐れずに英語で話そうとする児童」と設定した。そして、目指す児童

の育成に向けて、研究主題を「全ての子供たちが自信をもって英語で話せるようになるための指導の工夫～『話したい!』という意欲を引き出す言語活動を目指して～」とした。

## Ⅱ 研究の視点

目指す児童を育成し、研究主題を達成するために、以下の三つの研究の柱を設定した。

### 1 研究の柱① 主体的にコミュニケーション活動に取り組むための言語活動の工夫

- (1) 児童がすすんでコミュニケーションを図りたくなる魅力的な言語活動の設定
- (2) 発達の段階に応じた言語活動の設定

### 2 研究の柱② 既習事項の定着と活用に向けた言語活動の工夫

- (1) 発達の段階に応じた帯活動の設定
- (2) 対話の続け方を身に付けさせるための指導の工夫

### 3 研究の柱③ 児童が見通しをもって学習活動に取り組むための工夫

- (1) 学級の実態に応じた単元指導計画の設定
- (2) 一単位時間の授業の見通しをもたせる工夫

## Ⅲ 研究の仮説

学習の見通しをもたせ、児童が主体的にコミュニケーションを図りたくなる目的や場面、状況等を設定した活動と既習事項の定着をねらいとした言語活動を繰り返し行えば、全ての児童が自信をもって間違いを恐れずに英語で対話を楽しめるようになるだろう。

## Ⅳ 研究の方法

「間違いを恐れずに英語で話そうとする児童」を育成するため、次のとおり研究を行った。

### 1 課題の整理と指導方法の検討

児童の実態と課題を明確にするために、教育研究員が授業を担当している第3学年から第6学年の児童を対象に意識調査を実施した。意識調査は、検証授業前の9月と検証授業後の11月にそれぞれ実施した。児童の意識の変容を分析することで、より具体的に児童の意識を把握することができた。

また、小学校学習指導要領や『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中央教育審議会 令和3年1月26日）を参考に、児童が自信をもって英語でやり取りをし、対話を続けることができるようになるための指導方法を検討した。

### 2 授業実践

検討した指導方法は、「Ⅱ 研究の視点」に基づき実践した。

### 3 検証授業及び授業実践を通じて明らかになった成果と課題の整理

研究の視点に基づいて指導の工夫を取り入れた検証授業により、「間違いを恐れずに英語で話そうとする児童」の育成につながる授業改善になっているか、仮説の検証を実施した。各教育研究員の授業実践を通して明らかになった児童の変容を、研究の成果と課題として「Ⅷ 研究の成果と課題」にまとめた。

## V 研究構想図

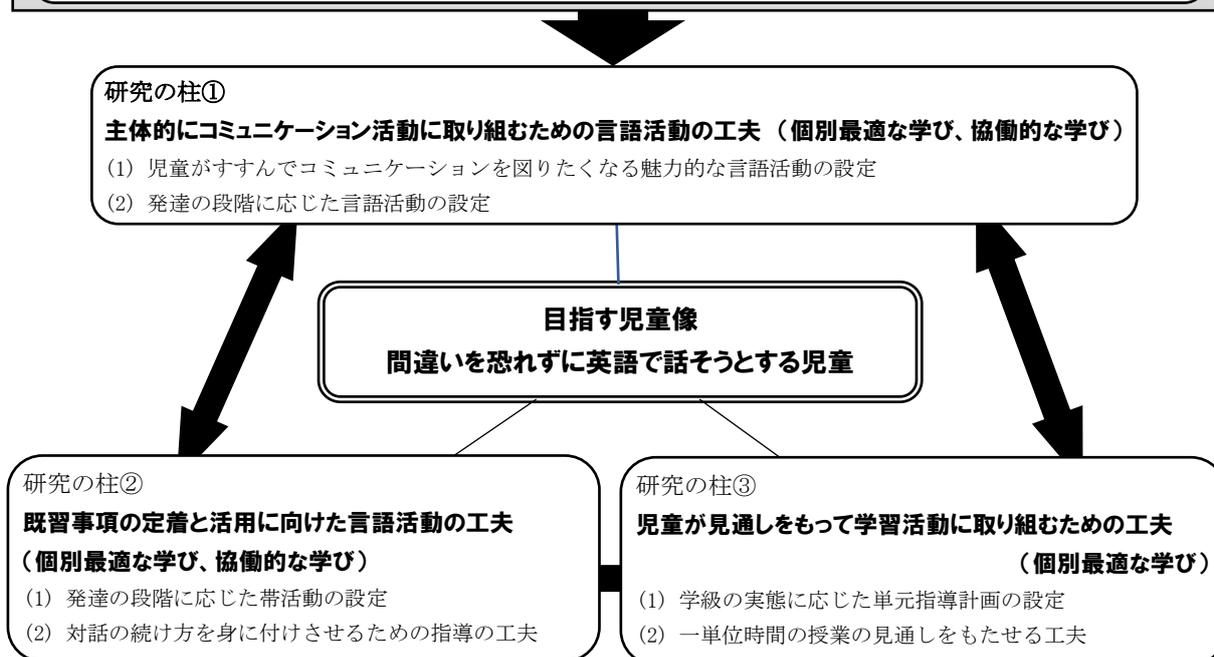
共通研究テーマ **全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現**

<p>ア 児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「英語で自分の考えを話したり、伝えたりすることが好きですか」「英語を使って話したいと思いますか」の質問に、約8割の児童が肯定的な回答をしている。否定的な回答には「恥ずかしいから」「自信がないから」「間違えたくないから」という理由が多く見られた。</li> <li>「外国語の授業内容が分かりますか」の質問に対して、9割近くの児童が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定的な回答をしている。</li> <li>「自分の気持ちなどを、先生や友達に英語で自信をもって伝えることができますか」「学校の授業で学んだことを、授業の中で使うことができますか」の質問に対しても、肯定的な回答が8割を超えている。しかし、「そう思う」に対して「どちらかといえばそう思う」の回答をする児童が多い。以上のことから授業内容を理解しているが自信がないことが分かる。</li> </ul> <p>イ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>失敗を恐れずに、自信をもって英語で対話ができるようになること。</li> </ul>
---

<p>小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編</p>	
<p>第1部 外国語活動 第2章 外国語活動の目標及び内容 第2節 英語 1目標 (2) 話すこと [やり取り] ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。 イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。 ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。</p>	<p>第2部 外国語 第2章 外国語科の目標及び内容 第2節 英語 1目標 (3) 話すこと [やり取り] ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。 イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。 ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。</p>

**研究主題** **全ての子供たちが自信をもって英語で話せるようになるための指導の工夫**  
～「話したい！」という意欲を引き出す言語活動を目指して～

仮説 学習の見通しをもたせ、児童が主体的にコミュニケーションを図りたくなる目的や場面、状況等を設定した活動と既習事項の定着をねらいとした言語活動を繰り返し行えば、全ての児童が自信をもって間違いを恐れずに英語で対話を楽しめるようになるだろう。



## VI 研究の内容

### 1 研究の柱① 主体的にコミュニケーション活動に取り組むための言語活動の工夫

研究を行うに当たって、児童が主体的に学ぶ姿を「児童が自ら考え、学習課題の解決に向けて意欲的に取り組む姿」と捉えた。主体性を促すために、授業を通して児童が「話したい！」と思う目的や場面、状況等を意図的に設定する必要があると考えた。

#### (1) 児童がすすんでコミュニケーションを図りたくなる魅力的な言語活動の設定

既習事項を活用し、学習の目標を達成するために、話す必然性のある学習活動を設定した。児童が実際に経験する可能性のある場面を想定したり、児童の興味・関心に基づいた題材や話題を言語活動に取り入れたりするなど、児童がすすんでコミュニケーションを図りたくなる魅力的な言語活動を設定した。

#### (2) 発達の段階に応じた言語活動の設定

外国語活動では、基本的な表現を用いて自分の思いや考えを伝える言語活動を設定した。外国語科では、既習事項を用いてその場で質問したり質問に答えたりして短い対話をする言語活動を設定した。

### 2 研究の柱② 既習事項の定着と活用に向けた言語活動の工夫

意識調査の結果を分析したところ、「話したい！」という思いはあるが、既習事項の定着が不十分なために自分の考えや思いを適切に相手に伝えられないといった児童の実態があるのではないかと推測された。自分の考えや伝えたい内容を一人一人の児童が自信をもって伝えられるよう、毎時間帯活動として、学習した表現を繰り返し活用する学習場面を設定した。既習事項を用いながら、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手に尋ねたりすることを繰り返し行うことで、間違いを恐れずに対話を続けられる児童の育成につながると考えた。

#### (1) 発達の段階に応じた帯活動の設定

外国語活動では、学習内容に沿った歌やチャンツ等の活動を取り入れた。また、既習事項を用いた簡単な挨拶を含むやり取りを設定し、目の前にいる相手とコミュニケーションを図る楽しさに触れる機会を確保した。外国語科では、Small Talk（ここでは指導者の話を聞いたり、児童同士で自分の考えや気持ちを伝え合ったりすること）を通して、既習事項を用い、自分に関することや気持ち等について、相手に配慮しながらやり取りをするよう指導した。

また、「パワーアップタイム」と名付けた既習事項を用いたやり取りを行う帯活動を設定して、既習事項の定着を図った。

#### (2) 対話の続け方を身に付けさせるための指導の工夫

対話を続けるための「対話の開始」「繰り返し」「一言感想・リアクション」「確かめ」「さらに質問」「対話の終了」の表現を、第3学年から繰り返し指導し、学習を積み重ねていく。

また、これらの表現をすすんで活用している児童を価値付けることで、児童の活用してみようという意識を高めるようにした。さらに、指導者が、対話の流れを示すデモンストラーションを実施したり、対話を続けるための表現を児童がいつでも確認できるような掲示物やワークシートを用意したりすることで、既習事項の定着を図った。

【対話を続けるための表現例】「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」（文部科学省 平成 29 年 6 月 30 日）より

対話の開始	Hello. / How are you? /
繰り返し	相手:I went to Tokyo. 自分: (You went to) Tokyo.
一言感想	That's good. / That's nice. / Really? / That sounds good.
確かめ	Pardon? / Once more, please.
さらに質問	相手: I like fruits. 自分: What fruits do you like?
対話の終了	Nice talking to you. / You, too.

### 3 研究の柱③ 児童が見通しをもって学習活動に取り組むための工夫

間違いを恐れずに英語で話そうとする児童を育成するためには、安心して取り組むことのできる学習環境が不可欠である。児童の興味・関心・意欲等を踏まえた学習環境を設定することで、児童が見通しをもって安心して学習に取り組めるような環境を整えた。

#### (1) 学級の実態に応じた単元指導計画の設定

単元の初めに児童と単元のみあてを共有し、毎時間授業の中で確認をする。そうすることで、単元のみあての達成に向けて必要な語句や表現の見通しを児童にもたせることができる。

また、学級の実態や発達の段階に応じて、学習計画を児童と一緒に考えていくことで、児童が単元のみあてに向けてより主体的に学習に取り組むことができると考えた。

#### (2) 一単位時間の授業の見通しをもたせる工夫

一単位時間の授業の見通しをもたせるため、一単位時間の授業の流れをパターン化し、学習活動の流れを教室内に掲示した。これにより、全ての児童が安心して学習の流れを理解し、学習に取り組むことができるようにした。

表 研究の柱における個別最適な学びと協働的な学びとの関連

	研究の柱① 主体的にコミュニケーション活動 に取り組むための言語活動の工夫	研究の柱② 既習事項の定着と活用に向けた 言語活動の工夫	研究の柱③ 児童が見通しをもって学習活動 に取り組むための工夫
個別 最適 な学 び	ア 学びたいことに合わせて学習方法を選べる環境の設定 イ 単元のみあての達成に向けて、話したいことを興味・関心に基づいて個々に決定できる環境の設定 ウ 自分に合った教材を選択できる環境の設定	ア 掲示物やワークシート等を活用した個に応じた手だての設定 イ 自分の能力に応じたスモールステップの設定	ア 見通しに対して自らの学びを調整させる指導 イ 学習内容を把握し、安心させるための手だての設定
協働 的な学 び	ア ペアやグループによる言語活動の設定	ア ペアやグループによる言語活動の設定 イ お互いを認め合う環境の設定	

## VII 検証授業

### 1 検証授業① 外国語活動 第3学年（第1回検証授業（全3回））

#### (1) 単元名

第3学年 Unit 5 What do you like? (何がすき)「Let's Try! 1」(文部科学省)

#### (2) 単元の目標

友達やALTのことをよく知るために、食べ物や身の回りの物について相手に伝わるように工夫しながら、自分の好みを伝えたり、相手の好みを尋ねたりする。

#### (3) 単元の評価規準

※ 関連する学習指導要領における領域別目標

話すこと [やり取り]	<p>イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。</p> <p>ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。</p>
----------------	---

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
友達やALTのことをよく知るために、食べ物や身の回りの物について、What do you like? I like ～.などを用いて、好みを尋ねたり答えたりすることに慣れ親しんでいる。	友達やALTのことをよく知るために、相手に伝わるように工夫しながら、食べ物や身の回りの物について、好みを尋ねたり答えたりして伝え合っている。	友達やALTのことをよく知るために、相手に伝わるように工夫しながら、食べ物や身の回りの物について、好みを尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。

#### (4) 単元の指導計画

	学習活動
第1時	単元目標「友達やALTと自己しょうかいやインタビューをしてなかよくなるう」に向けて、学習計画を立てる。
第2時	スポーツの英語での表現に慣れ親しみ、友達と好きなスポーツを尋ねたり答えたりして、お楽しみ会で取り組むスポーツを決める。
第3時 (本時)	食べ物、料理などを題材に、相手に好みを尋ねる表現に慣れ親しみ、栄養士の先生にリクエストするために、好きな料理を尋ねたり答えたりして、クラスで人気の給食メニューを決める。
第4時	友達のことをよく知るために、好きなものを伝えて自己紹介をしたり好きなものを尋ねてインタビューをしたりして、3年1組友達図鑑を作る。
第5時	ALTのことをよく知るために、好きなものを伝えて自己紹介をしたり、好きなものを尋ねたりしてインタビューをする。

#### (5) 本時の目標

栄養士の先生に給食のメニューをリクエストするために、友達に好きなメニューを伝えたり尋ねたりして人気メニューを決める。

(6) 本時の展開

	学習内容・学習活動	◎指導上の留意点 □配慮事項 ○評価
導入 3分	<b>1 あいさつ</b> ・歌遊びで授業を始める。 “Do you like spaghetti?”	
展開 33分	<b>2 パワーアップタイム</b> ・既習事項を復習しながら、好きな物を尋ねる表現を広げるためにペアで考える。 <b>【ペア活動】</b> “What ○○ do you like?” の○○に入る言葉をたくさん見付けよう。 <b>3 単元のゴールを確認する。</b>	<b>協</b> ペアで互いに協力しながら、活用できる言語表現を増やす。 (研究の柱② ア)
	<b>4 チャンツ</b> “What do you like?” <b>5 Small Talk</b> ・指導者と児童で、給食についての対話をする。 ※栄養士の先生が英語で好きな給食メニューを教えてほしいことを伝えるメッセージ動画を見せる。 <b>6 本時の目標の確認をする。</b>	<b>協</b> 指導者と児童とのやり取りを示すことで、友達の反応の仕方を見ながらどのようなやり取りをすればよいか学ぶ。 (研究の柱② ア)
	<b>7 クラスの人気メニューを決める。</b> (1) 活動の確認・デモンストレーション (2) My Time ・友達に好きな給食を尋ねるために、個人で尋ねるための表現や単語の確認や練習をする。 (3) 友達との対話 ・友達と好きな給食のメニューを尋ね合う。 (4) 中間指導 ・友達とのやり取りを通じて、伝え方やその内容について確認する。	<b>個</b> 自分の伝えたいことを考え、必要に応じて友達や指導者に尋ねたり、表現集を使って音声の確認をしたりする。 (研究の柱① ア) ◎中間指導を通して、言語面の問題解決をしたり、指導を行ったりして、次の言語活動に活かせるようにする。 <b>協</b> やり取りの際に困ったことやよい表現を学級で共有し、友達と解決したりよりよいやり取りにしたりする。 (研究の柱① ア)
	ALT に自己紹介をしたり、インタビューをしたりしてもっとお互いのことを知り、仲良くなろう。	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のやり取りの方法や表現について、価値付ける。</li> </ul> <p>(5) 友達との対話の続き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな給食を聞く活動の続きを行う。</li> </ul> <p>(6) 成果の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの人気メニューを確認する。 (伝え方や表現の工夫について振り返る。)</li> </ul>	<p>○友達やALTのことをよく知るために、相手に伝わるように工夫しながら、食べ物や身の回りの物について、好みを尋ねたり答えたりして伝え合っている。(行動観察)</p>
まとめ 9分	<p><b>8 本時の振り返りをする。</b></p> <p><b>9 挨拶をする。</b></p>	<p>○友達やALTのことをよく知るために、相手に伝わるように工夫しながら、食べ物について、好みを尋ねる活動に対する新しい気づきを表現している。(ワークシートの記述・発表)</p>

(7) 検証授業①における成果と課題

ア 成果

- ・ 児童にとって身近な「給食の献立」を言語活動の題材として設定したことで、学習活動に興味関心をもち、自分の好みについて相手に「伝えたい」という気持ちを引き出すことができた。
- ・ 既習事項の定着を図ったパワーアップタイムを帯活動で入れ、単元を通して身に付けさせたい表現や語彙を繰り返し用いることで、実際のコミュニケーションを通じて児童同士が自信をもって英語でやり取りできる姿が見られた。
- ・ 単元のゴールや学習の目標を毎時間意識させながら授業を進めたことにより、児童自らが見通しをもって、学習活動に取り組むことができた。

イ 課題

- ・ 個別に練習したり振り返ったりすることのできる配布物を工夫することで、自分の伝えたいことを、さらに自信をもって伝えられるようにする必要がある。
- ・ 中間指導を通して、対話の広げ方やリアクションの仕方を例示し、その後の対話に生かせるようにする必要がある。

2 検証授業② 外国語科 第5学年 (第2回検証授業(全3回))

(1) 単元名

Unit 5 “My hero is my brother.” *Here we go!* (光村図書)

(2) 単元の目標

自分の「推し」を相手によく知ってもらうために、その人のできることやできないこと、性格、得意なことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて話したり、詳しく聞いたりすることができる。

(3) 単元の評価規準

※ 関係する学習指導要領における領域別目標

話すこと [やり取り]	ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。
----------------	---

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① できることや得意なこと、性格などを伝える語句・表現について理解している。	進級・クラス替えを前に、自分のことをもっとよく知ってもらうために、自分の「推し」のできることや得意なこと、性格などについて、自分の考えや気持ちを含めて伝え合っている。	進級・クラス替えを前に、自分のことをもっとよく知ってもらうために、自分の「推し」のできることや得意なこと、性格などについて、自分の考えや気持ちを含めて伝え合おうとしている。
② できることや得意なこと、性格などを伝える語句・表現について話す技能を身に付けている。		

(4) 単元の指導計画

	学習活動
第1時	単元目標「自分の推しをALTの先生に紹介しよう」に向けて学習計画を立てる。
第2時	He/She is ～を使って、身近な人の性格や職業を聞き取ったり、答えたりする。
第3時	He/She can ～を使って、身近な人のできることや得意なことを紹介する。
第4時	先生や家族といった身近な人についてのスリーヒントクイズを作る。
第5時	有名人やキャラクターについてのスリーヒントクイズを作る。
第6時	「推しについて特に伝えたい3つのこと」について文を作成する。
第7時 (本時)	ALTになりきって、「推し」についてお互いに発表したり、質問したりする。
第8時	ALTに自分の「推し」について紹介したり、質問に答えたりすることができる。

(5) 本時の目標

友達に「推し」について伝えたいことを発表し、「推し」についてより理解し合えるように、お互いに質問をしたり、質問に答えたりすることができる。

(6) 本時の展開

	学習内容・学習活動	◎指導上の留意点 □配慮事項 ○評価
導入 10分	<b>1 あいさつ</b> <b>2 チャンツ</b> She is my sister. She is active. <b>3 表現の発音</b>	
	<b>4 パワーアップタイム【Small Talk】</b> ・本単元で学習した表現を使って、ペアで対話をする。	<input checked="" type="checkbox"/> 第1時から第4時の間で児童と作成した表現集が必要な児童は、表現集を活用しながら質問をする。 (研究の柱① ウ) <input checked="" type="checkbox"/> お互いに協力し合いながら対話を続ける。

		(研究の柱② ア) □支援が必要なペアには、質問の仕方や答え方の支援をする。
展開前半7分	<p><b>5 前時の活動「推しについて特に伝えたい3つのこと」の復習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自書いたものを再度読み直し、練習する。</li> </ul> <p><b>6 本時の目標の確認</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">       友達に自分の「推し」について知ってもらえるようアピールをしよう     </div>	□自分の書いた文章中の語句の発音に不安がある児童は、友達や指導者に発音などを確認する時間を取る。
展開後半20分	<p><b>7 「友達へのアピールタイム」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「友達へのアピールタイム」の説明</li> <li>「友達へのアピールタイム」(2分)</li> <li>① 6人で1つの班をつくる。</li> <li>② 発表者が、他の班員に3文発表する。</li> <li>③ 質問に対して受け答えをする。</li> <li>他の班員からアドバイスをもらう。</li> <li>発表側、質問側共に注意事項を確認する。</li> </ul> <p><b>8 班ごとに「アピールタイム」の内容を振り返る。</b></p> <p><b>9 「友達へのアピールタイム」の続きを行う。</b></p>	<p>◎教員が、学習活動のデモンストレーションを通して流れを示すことで、対話のモデルを示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人につき、一回は質問をする。</li> <li>質問の方法が分からない又は支援が必要な場合は、ヘルプカードを用いることができる。</li> </ul> </div> <p>◎中間指導を通して、言語面と内容面での指導を行い、次の言語活動へ生かす指導を行う。また、児童同士のやり取りを通じて、適宜共有する。</p> <p>○自分の「推し」のできることや得意なこと、性格などについて、自分の考えや気持ちを含めて伝え合っている。(行動観察)</p>
まとめ8分	<p><b>10 全体でのまとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を通して、めあてに対してどのようなことができるようになったか、また次時にどのように生かしていくかを確認する。</li> </ul> <p><b>11 個人でのまとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自、今日の活動を通してもらった質問やアドバイスを確認する。</li> <li>質問に対する答え方を自分で調べる。</li> </ul> <p><b>12 個人での振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達へのアピールタイムの学習活動を通して、何を学んだかを確認する。</li> </ul>	<p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個</span>今日の活動を通して、質問に対する答え方などを調べたり、友達に聞いたりする。</p> <p>(研究の柱① イ)</p>

## (7) 検証授業②における成果と課題

### ア 成果

- ・ 言語活動で扱う題材について、自分自身が伝えたい思いを引き出す「推し」に設定したことで、コミュニケーションの目的・場面・状況等を児童が意識し、児童にとって「話したい」という意欲を高める魅力的な言語活動を設定することができた。
- ・ 自分の「推し」を紹介する相手を ALT に設定したことで、常に相手意識をもってやり取りを通じて学習を進めることができた。
- ・ 英語を話すことに自信がない児童にとって、「表現集」は個別最適な学びにつながる手だてとして効果的であった。
- ・ ALT に紹介する前に友達に紹介する場を設定したことで、友達同士でアドバイスをし合う姿が見られ、協働的な学びへとつながる手立てとなった。

### イ 課題

- ・ 表現集があることで、多くの児童が表現集を確認し、相手を見ずに対話していた。自分の伝えたい内容や適切な表現を確認しながら友達に伝えようとする意識が見られる一方、相手の反応や様子を確認しながら自分の気持ちを伝える伝え方を取り入れていく必要がある。
- ・ 「友達へのアピールタイム」では、児童同士で自発的にやり取りができることを目指したが、1 グループの人数が多かったため、やり取りがスムーズに進まないグループがあった。1 グループあたりの人数を少なくする必要がある。

## 3 検証授業③ 外国語科 第5学年 (第3回検証授業(全3回))

### (1) 単元名

Lesson 9 “My Hero, My Dream Friend” ONE WORLD Smiles (教育出版)

### (2) 単元の目標

自分の「推し」の魅力を伝えるために、その人のできることや得意なこと、性格や職業などについて、聞き取ったり伝え合ったり質問したり答えたりする活動を通して、英語を使った対話を楽しむことができる。また、友達とのやり取りを通して、対話をもっと続けたいようになるように、質問したり答えたりする表現方法を身に付けることができる。

### (3) 単元の評価規準

検証授業②と同様に設定した。

### (4) 単元の指導計画

	学習活動
第1時	単元のゴールを理解し、学習計画を立てる。
第2時	人の性格や特徴を表す語句や表現を学ぶ。
第3時	人の性格や特徴を表す語句や表現を使って友達とやり取りをする。
第4時	can や good at といった表現を活用して、先生を紹介するためのワークシートを作成する。
第5時	先生について友達と紹介し合う。

第6時	学習した語句や表現を使って、「推し」を紹介するためのメモを作る。
第7時 (本時)	友達と「推し」についての対話を楽しみながら、既習事項を用いて「推し」を紹介することができる。
第8時	自分の「推し」についてALTに伝え、質問に答える。

(5) 本時の目標

友達と「推し」についての対話を楽しみながら、既習事項を用いて「推し」を紹介することができる。

(6) 本時の展開

	学習内容・学習活動	◎指導上の留意点 □配慮事項 ○評価
導入 10分	<b>1 あいさつ</b> <b>2 Let's Sing</b> <b>3 表現の発音</b> <b>4 パワーアップタイム【Small Talk】</b>	<input checked="" type="checkbox"/> これまでの学習内容を想起できるように、教科書や表現集などを参考にし、自己のタイミングで表現や語彙を振り返ることができるようにする。 (研究の柱③ ア)
展開前半 5分	<b>5 本時の目標の確認</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           友達と「推し」についての対話を楽しみながら、既習事項を用いて「推し」を紹介することができる。         </div> <b>6 前時の確認</b> ・前時で記入したワークシートを確認する。	
展開後半 30分	<b>7 「アピールタイム」の準備</b> ・「推し」について伝えたい内容を確認する。 ・既習事項を振り返ったり、相手により伝わりやすい表現方法を個人で検討したりする。 <b>8 「アピールタイム」を行う。</b> ① 2～3人でグループをつくる。 ② 「推し」に関する対話続ける。(1分) ③ 対話の続け方に関するアドバイスを、他の班員と伝え合う。 <b>9 「アピールタイム」の振り返りをする。</b> ・相手を意識して伝えるための表現や語彙などについて振り返る。 <b>10 ペアを変えて、「アピールタイム」を行う。</b>	<input checked="" type="checkbox"/> リアクションの仕方や質問の仕方など、対話続けるために必要な方法や工夫についてよかった点を共有し、相手意識や伝える目的に応じてより適切な伝え方や表現方法を検討する。 (研究の柱② ア) ◎中間指導を通して、言語面と内容面での指導を行い、次の言語活動へ生かす指導を行う。また、児童同士のやり取りを全体に紹介し、適宜共有する。 ○進級・クラス替えを前に、自分のことをもっとよく知ってもらうために、自

		分の「推し」のできることや得意なこと、性格などについて、自分の考えや気持ちを含めて伝え合っている。(行動観察)
まとめ5分	<b>11 全体でのまとめ</b> ・児童から発せられた表現の中で、まねをしてもらいたい文法や語句、リアクションの仕方などを伝える。 <b>12 個人での振り返り</b> ・学習活動を振り返り、自分がどのようなことができるようになったかを振り返る。	<b>個</b> 学習活動を通して、質問に対する答え方について、自分に適した方法で調べたり、友達に聞いたりして今後の学習の参考にしたりする。 (研究の柱② イ)

(7) 検証授業③における成果と課題

ア 成果

- ・ 前回の検証授業②で明確になった課題を踏まえ、「アピールタイム」の人数を2～3人にしたことで、「対話」という意識をもって活動できた。
- ・ 紹介内容の全文ではなく、メモ程度にしたことで、友達と紹介し合う場面で、聞き手を意識して話したり、相手の発言に対してリアクションをしたりする児童の姿が見られた。
- ・ 「表現集」を個人で作成したことで、コミュニケーションを図る上で必要な表現について、個人の学習のペースやニーズに応じた方法や手段（教科書、デジタル機器、友達に聞くなど）で、収集する児童の姿が見られた。

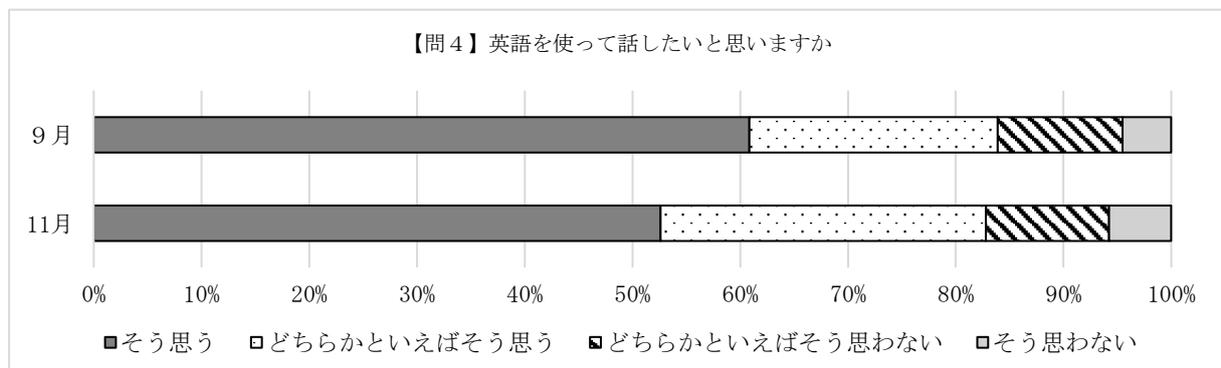
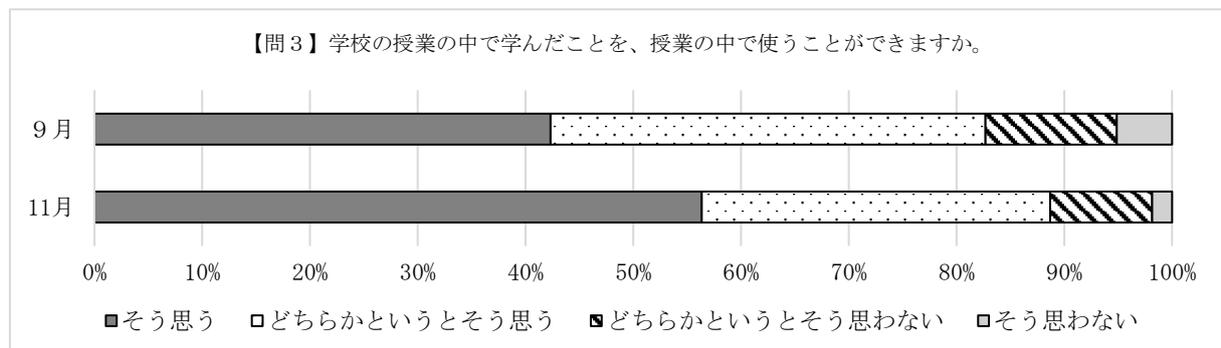
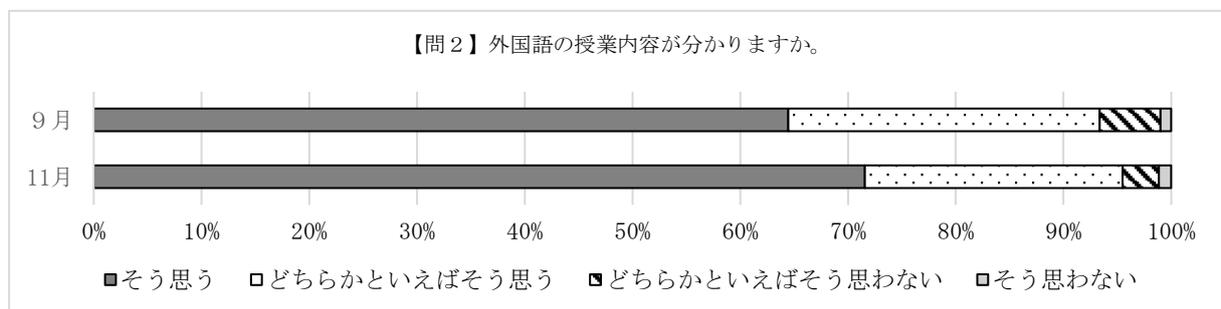
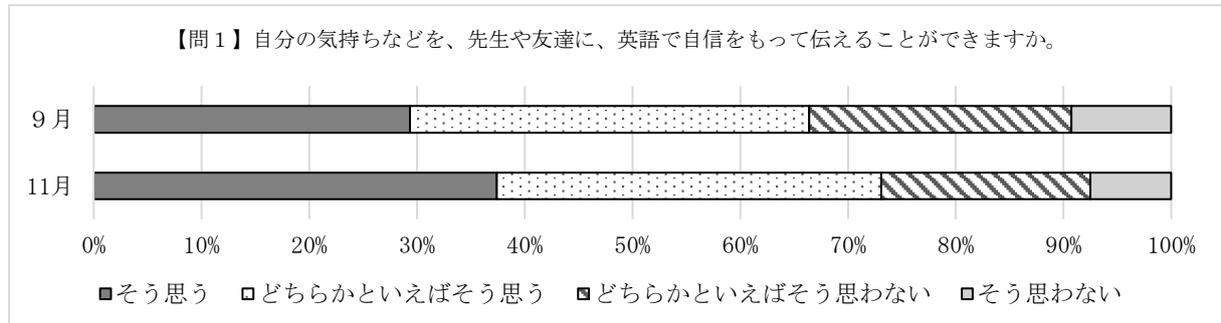
イ 課題

- ・ 単元のゴールをALTとの対話に設定したことで、友達との対話の際は学習していない表現や語彙を使う児童の姿が見られた。相手意識を明確にし、聞き手に分かるように、という意識をもたせる必要があった。
- ・ 既習事項の積み重ねが大切である。帯活動（あいさつ、歌、チャンツ、Small Talk等）を駆使して、既習事項の復習をし、学級の実態に応じて改善しできることを積み重ねていく必要がある。
- ・ 「アピールタイム」の際に、自由なやり取りを行っていくことで、協働的な学びを通して主体的に学習に取り組み、対話の続け方を身に付けさせていきたい。
- ・ 児童が対話を楽しんでいる様子は見られたが、内容面と言語面で適切な英語を用いてやり取りを行っているのかについて、見取ることが十分でなかった。そのため、児童の学習状況を捉え、評価方法を考える必要があった。

## VIII 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

本研究を通して、検証授業前と検証時授業後の児童の実態調査を行った。以下のグラフは、児童の変容を表したものである。



本研究では、三つの「研究の柱」に基づいた指導実践について、取組の効果を検証した。以下、それぞれの「研究の柱」について成果を述べる。

#### (1) 【研究の柱①】

児童がすすんでコミュニケーションを図りたくなる魅力的な言語活動を設定したことに

より、児童はすすんでコミュニケーションを図っていた。学級の児童の実態に応じて、中学年では給食メニュー、高学年では「推し」などの身近なものを題材に設定したことにより、児童が主体的に言語活動に取り組んでいた。

(2) 【研究の柱②】

既習事項を繰り返し活用させたことで、学んだことを毎時間の授業に生かしていた。その結果、間違いを恐れずに対話を楽しめる児童が増加した。中間指導を通して、対話を続けるための方法を指導した。これにより、対話をスムーズに続けられるようになり、児童の自信につながった。

(3) 【研究の柱③】

- ・ 単元の目標を毎時間児童と共有したことで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。
- ・ 単元の目標と一単位時間の授業の流れをより明確に提示したため、見通しをもって安心して学習に取り組めるようになった。そのため、児童が自分自身でどこまで目標を達成したのかを把握しやすくなり、次の課題を見付けやすくなった。指導者も児童の実態に沿った指導計画を立てやすくなった。

## 2 研究の課題

- 「外国語の授業内容が分かりますか」という問いに対して、明確な変容が見られなかった。問いに対して否定的な回答をした児童に対するつまずきの見取りが不十分であったと考えられる。つまずきの原因を把握するために、指導者の指導方法や児童の実態、理解度に応じた言語材料・言語活動の設定を見直し、授業改善に生かすことが必要である。また、児童が自分のできるようになったことや課題についてまとめ、学習理解の状況を把握できるような振り返りカードを作成することを検討する。
- 児童全員が自身の課題を解決したり自己の学習の進捗状況を調整したりすることができる活動を設定した。多くの児童は主体的に活動に取り組めたが、個人の時間で学習内容の理解や表現、語彙の定着が不十分な児童の姿が見られた。そのため、児童の実態に応じて、学び合いや協働的に助言し合うなどの活動形態の工夫を取り入れるなど、個に応じた適切な手だてを講じていく。
- 「英語を使って話をしたいと思いますか」という問いに対して、検証授業前後での大きな変容は見られなかった。英語の授業を通して、英語を話すことへの必然性を児童に感じさせる工夫を行うとともに、英語を話したいという意欲を高めるための工夫も継続的に取り組んでいく。

## 令和6年度 教育研究員名簿

### 小学校 外国語活動・外国語

学 校 名	職 名	氏 名
足立区立千寿小学校	主任教諭	原 大 貴
三鷹の森学園三鷹市立高山小学校	主任教諭	坪 井 梓
小平市立鈴木小学校	主任教諭	梶 田 智 美
福生市立福生第六小学校	主幹教諭	窪 田 洋 一
多摩市立北諏訪小学校	主任教諭	◎國 田 将

◎世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育経営課

指導主事 平澤 卓磨

令和6年度  
教育研究員研究報告書  
小学校 外国語活動・外国語

令和7年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849